

第10期男女共同参画推進本部をどうぞよろしくお願ひします

男女共同参画推進本部長 竹鼻 ゆかり

2024年4月から男女共同参画推進本部長を拝命しました竹鼻ゆかりでございます。当本部は、2006年に発足し今年で19年目を迎えました。この間、当本部は、多くの方々のご理解とご協力を得ながら、教職員の働き方改革、大学の構成員すべての方々のジェンダー平等などに向けての理解と支援の拡充に取り組んで参りました。この取り組みがさらに充実するよう私自身、微力を尽くして努力して参ります。皆様には、ご支援を賜りますようどうぞよろしくお願ひします。

私が育った昭和の時代には、アニメ「巨人の星」や「アタックナンバーワン」のなかに、伝統的な性役割が強調されていました。両作品ともに、スポーツで頑張る姿が描かれています。一方で、男性はスポーツや仕事で活躍し、女性は家事を行い家族のサポート役になる、という性別による役割分担や、男性は「強さ」や「努力」を、女性は「献身」や「忍耐」を、という性別による行動規範が描かれていました。こうして私自身、知らないうちに性役割が刷り込まれていたように思います。

ところが時代は変わり、近年では男女共同参画の重要性が一層認識されるようになり、社会全体での意識改革が進みました。本学でも教職員の皆様が働きやすい環境となるための取り組みとして、柔軟な勤務体制の導入や、育児・介護と仕事の両立支援策を強化したり、啓発活動を行ったりしております。また当本部では、教職員の皆様の子育てや介護に関するご経験やご意見を共有できる場を提供し、共に考え、共に行動することを大切にしています。このOPGE通信もその一環として、最新の取り組みやイベント情報、先進的な事例の紹介を通じて、皆様には有益な情報をお届けして参ります。

また現在、本学では、男女共同参画推進本部の取り組みをより一層充実、発展させるべくダイバーシティ・インクルージョン推進本部の設置に向けた構想を検討中です。東京学芸大学が真に多様性を尊重し、附属学校・園を含めた大学全ての構成員の方々が輝ける場所となるよう、本部員一同これからも努力して参ります。皆さまお一人おひとりのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、2019年4月の学内委員会体制の改編より、当本部の構成員は学系からの選出はせず学長委嘱による本部員とし、事務は人事課が担当しております。第10期男女共同参画推進本部をどうぞよろしくお願ひします。



(写真)前列左から 中島 竹鼻 高橋
後列左から 渡部 伊藤(三) 伊藤(雅) 高山 関田 前田 萬羽

◎本部長 ○副本部長

氏名	所属	氏名	所属
◎竹鼻 ゆかり	副学長(職指定)	萬羽 郁子	総合教育科学系
○中島 裕昭	理事(職指定)	関田 義博	附属学校運営部
○高橋 正敏	副学長・事務局長 (職指定)	前田 綾香*	学務課教務第一係

任期 *は2025年3月31日、その他の委員は2026年3月31日

～出生時育児休業をご存じですか？～

「出生時育児休業」とは、**主に男性職員が出産直後の配偶者とともに育児をしやすくするための新たな育児休業制度**です。令和4年10月1日の育児・介護休業法の改正によって施行されました。

本学でも同日付けで規則改正を行い、制度化しています。

子の出生後、8週間の間に、最大4週間の休業を2回に分けて取得できるのが大きな特徴です。

また、通常の育児休業の場合、申出の期限が1月前であるのに対し、**出生時育児休業の申出期限は2週間前まで**と、よりスピーディーに休業が取得できます。



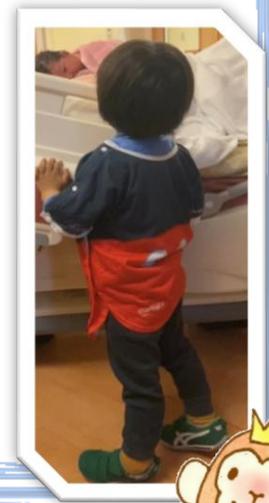
体験談

総合教育科学系特別支援科学講座 准教授 平田 正吾

2024年4月に第2子が誕生することになり、出生時育児休業(パパ育休)を、3週間取得しました。取得に当たり、「3週間でもいいのか？」と多くの方からお声かけをしていただき、そのご厚意が身にしみました。さて、育休の開始は予定日を過ぎた後からにしていたのですが、予定日を過ぎても娘はまだ出てこず、育休開始後3日目に誕生しました。今回、母子が入院していた病院は、子供の出産立ち合いが可能とのことで、3歳の長男も出産に立ち合うことができました。長男がどのような反応を示すのか、はじめはやや不安だったのですが、父子で妻に寄り添ったり、生まれた直後の妹によよしと触れたり、家族として大変貴重な経験をすることができました。

娘も無事生まれ、いよいよ本格的に育児休業に専念しようと思っていたところ、妻が入院中に敗血症と診断され、約3週間の入院を余儀なくされることになりました。幸か不幸か娘も巨大児と診断され、経過観察が必要とのことで、母子ともに院内で一緒に過ごすことになりました(現在は、母子ともに健康です)。これがもし妻が一度、退院した後の入院であったら、娘と一緒に入院することはできなかったとのことで、その場合は私が3歳児と新生児の世話を自宅ですることになっていました。実際に、そうした状況に置かれたご家庭もあるかとは思いますが、私が果たしてその状況を切り抜けることができたのかは、やや自信がなく、ただそうした事態を回避できたことに感謝したいと思います。

そのようなわけで、育休中は娘の世話を家で行うというよりも、息子を保育園に送った後に病院に行くという日々を過ごしていました(ところで、自治体によっては、下の子の育児休業を取得すると、上の子が保育園を退園になってしまう育休退園というルールが存在する場合もあるとのこと、、、さすがにどうにかならないものでしょうか)。途中、私が結膜炎になり、面会できないというアクシデントもありましたが、育休終了とほぼ同じタイミングで、家族4人で過ごせるようになりました(妻が帰宅した際に、息子が「パパはもういい」と言ったことが忘れられません)。その後も、息子以外がコロナに罹患したり、まさにこの原稿を書いている時点で息子が手足口病になったりと、トラブルはいつも突然生じますが、その度に同僚の皆様や研究室の学生の理解に加え、ベビーシッターや病児保育のような制度に助けられています。私自身も講義で「社会全体で子供を育てる」ということを折に触れ言ってきましたが、そのことの大切さとありがたさを、まさにわが身で実感した育休期間でした。関連する方々に、あらためて感謝いたします。



令和5年12月に、東京学芸大学として初めて「くるみん認定」を受けることができました。HP等にくるみん認定マークを掲載することができますので、ぜひご利用ください。

詳細は男女共同参画推進本部HPをご覧ください。



学芸大 男女

で検索



東京学芸大学 男女共同参画推進本部

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1

TEL: 042-329-7126 (事務局:本部棟4階人事課職員係)

E-mail: shien1@u-gakugei.ac.jp URL: <http://www.u-gakugei.ac.jp/~danjo/>